

“ふじのくに”士民協働事業レビュー結果

(教育委員会)

事業番号	23	事業名	「確かな学力」育成推進事業費(教科等指導リーダー育成事業)
------	----	-----	-------------------------------

1 基本情報

実施日/班名	9月8日 第3班	時間	13:08~14:15
担当課名	学校教育課	事業費	24,926千円

2 レビューの結果 施策を推進する効果の程度

結果	あまり効果がない	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	2
			一定の効果がある	11
			あまり効果がない	15

3 県民評価者の意見

(1)見直し・改善策

目的指標	<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力」UPを目的としたテーマにかえて、具体化案にした方が理解できそうである。この方が県のイニシアティブで活動できる。
対象範囲	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質・指導力の向上に期待できる。指導リーダーに過度の負担にならないよう総合教育センターとのより一層の緊密な連携を図ることで、多くの教員の資質が向上し、それが子どもたちの教育にもはね返るものと思われる。 ・高校の教科等指導リーダーが助言対象者、若手教員の数に対して少ないのではないかと。リーダー1人に対し、何名が適当な数が検討してほしい。 ・小中学校で効果の割合がリーダー、学校と教育委員会との評価にズレがある、というのは現場との意見が違っているのではないかと思う。教員も日々の業務に多忙であるのに研修の時間を割くのはどうかと思う。他の研修との一環でできないものか、また、リーダー育成は学校内でできないのだろうか、疑問である。リーダー育成は大事だと思うが、「確かな学力」の向上につながるとは考えにくい。 ・市町村の教育センターで指導するほうがよい(地域のほうがよい)。もし市町でできない場合は県のリーダーからサポートしてもらおう。 ・学校現場は現場で授業を見学しながらリーダーを育てたほうがよい。 ・県から離して市町のエリアリーダーがリーダーを育てるほうがよい。 ・確かな学力をあげる目的で教師、教員のレベルアップ研修、勉強は必要である。教員の評価は企業等で実施している人事考課制度も考える必要があるのではないかと。OJTで資質の向上が得られる。 ・総合教育センターで取り扱う事業とする。 ・同じようなことをやる総合教育センターに任せたいほうが良い。 ・中堅層のリーダー育成は一般企業でも課題となっているものなので行っていく必要はあると思う。ただ、やり方はよく考えるべきである。 ・外部に出るのではなく、内部(学校内)でリーダーとしての指導力を養うべきではないか。

- ・中堅層の人員が少ないかもしれないが、リーダー的能力が劣っているとは思えない。研修の増加は現場の負担を更に増やしてしまうという話もあったので、これまでのやり方、現場のOJTの活用などから見直してはどうか。
- ・今の施策ではリーダーに育つために、中堅の先生の方向性を修正しにくいように思われる。今回のような方法ならば、ベテラン、中堅、若手全てが混ざり合って中堅のリーダーの力を養うことができる。
- ・先生の負担が大きくなるようなので、教育センター等との一元化し研修全体の見直しを図るべき。
- ・中堅クラスの先生が抜ける穴は大きく、負担が大きくなることもあり、人事配置をうまく行うことでバランスを取るべきである。
- ・各リーダー研修、講習で本当に指導力の向上になるのでしょうか。採用試験も乗り越えた先生ですので、実社会での体験のほうが良いのでは。
- ・先生の新しいランク付けだけでは？先生の向上になっても、子どもたちの学力の向上につながっているのか。
- ・先生の指導、教育と生徒の学力向上がリンクしていない。因果関係がはっきりしていないものに予算、時間を費やすべきではない。
- ・市町への実行移管を進めたほうがいい。
- ・指導リーダーのアンケート調査結果はよいが、そこで終わっている。生徒の学力に結びついていないところが残念。
- ・総合教育センターの業務と集約していくのが良いと思う。
- ・県の東部、中部、西部でレベルの差ができないような工夫をしてはどうか。
- ・「信頼できる先生がいる」と答えている中高生は60%台と極めて低い。大きな問題。だから静岡県は問題を起こすのでしょうか。中堅教員の教育より「信頼できる先生」を作り上げるほうが先ではないか。
- ・研修のために本来の業務から離れる時間はできるだけ少なくすることは重要である。よって、総合教育センターでの研修内容の補充によって問題解決を図るべきである。人を指導する役割を担う教員の育成は基本的指導力を上げることであり、別個に行う必要はない。
- ・学力向上のための施策として必要性は理解できるが、研修が多すぎる。現場との連携の強化が必要である。
- ・リーダー育成は大切だと思うが、教職員の質の平均のレベルアップが必要。自分の子どものときも、教師の質で成長に影響が出た。良い先生とそうでない先生がはっきり分かるので、これを直さないと順調な教育は困難だと思う。
- ・小中学校、特に小学校の学力（国語全国最下位）低下が問題。指導リーダー、エリアリーダー設置で学力UPにつながるのか（研修が多すぎる）。
- ・他県の成功事例を有効活用すべき。教職員の年齢構成の変化（35～45歳）は他県でも同じ状況と推定される。
- ・10年後に20歳代2500名増える 優秀な人材を採用し研修制度を見直す。
- ・指導リーダー、エリアリーダーは能力がある方々。リーダーになっていない35～45歳の次代を支える教員の育成をしたほうが良い。リーダーを育てるよりは教員全体のスキルアップを目指したほうが良い。
- ・市町と連携して一本化してやればよいと思うので、今のシステムで変わらなければ県で行う必要はない。
- ・内容的には効果があると思う。
- ・研修も必要だが、本来の仕事をきちんとこなすことで得られる学びも多いと思う。
- ・現場との状況にあった研修を行ってほしい。
- ・教職員の指導力向上のための研修は様々あると思うが、全てを検討し集約し最も効果的な教職員指導を実施すべき。
- ・査定も必要ではないだろうか。
- ・教育センターで研修を一括する方法もあると思うが、地域独自の問題（リーダー独自のやり方もPRする）も含めて研修を行う指導リーダー、エリアリーダー方式も継続して効果を検証していく必要があると思う（H24からのスタートで期間が短い）。
- ・スキルアップで最も効果の上がるものは、SDF＝自己啓発である。与えられたOFF-JT＝校外研修は最も効果が薄いと言われ、OJT＝現場実践のほうがはるかによい。

- ・市町の力量にも問題があると思うが、リーダーの能力を均一に上げるのであれば効果があるかもしれないが、人員の選択は慎重に行う必要がある。また、市町の小さなところの人員不足のときはどうすべきか考える必要がある。
- ・代替教員は能力がかなり必要な気もするし、そのフォローは重要かと思う。
- ・教員の資質向上を図るという目的に向かっている姿はよく理解できるので、推し進めていただきたい。ただ、生徒及び直近の教師への負担等に対するデメリット対策が必要と思う。例えば「テレビ会議」のようなシステムを導入するとか、他の IT 技術の採用も検討してはどうか（現状例の“国語の学力”事例をみると実績「確かな学力」がっていないのが残念ですが…めげないで）
- ・今回の中身でいえば公開授業が OJT に近く、これは認めてよいが研修会や協議会はほとんど意味がないし、研修意欲につながらない。
- ・授業の方法について、最も効果的なやり方は生徒に考えさせ、説明させ議論させる方法のはず。先生自身の能力、スキルを伸ばすのも、自発性が求められる研修としなければ上から与える方法はだめだと思う。
- ・まず校内で先輩、後輩教師（若手）の日常指導、次いで市町で広げる工夫。
- ・すぐれた事業は DVD で作り、各学校に配布するほうがはるかに効き目があるのではないか。
- ・方法、コツなどを冊子化してはどうか。費用的にも自主学習や意欲の反映でも効果があるのではないだろうか。
- ・リーダーをいかに育てていくか。それは継続した力や質を保ちながらという絶対的条件をふまえておかななくてはならない。
- ・教員の資質向上は、子供に伝える能力が必要であり、教員の資質とは何かをもう一度確認してもらえればよいと思う。教職員の心の健康を害している人も多い中、本当に子供に伝えていく能力をどう教員がつけていくかが必要。
- ・病院の例でいくと、経験年数が高くなり、責任を負うようになれば、外に（研修に）出ることは多くなるが、新人の方は、必ずその上の方にマンツーマンで教えていただいて、病院の中で（研修のために）穴を開けることはない。評価表をお互いに持ち合っ、分からないところは直接聞いてスキルを高めている。産科なら産科に所属している者が指導者になる。管理職となって本当にリーダーとして育成していかなければならない時期がきたときに初めて外部の力、専門性の高い方の力をお借りする。教育の現場で、年齢が高い人がスキルが高いというわけではない。若くても能力がある人はいる。任命するときは確かにしっかりした人を任命する必要はあると思うが、現場でいかに継続してリーダーを作っていくかが基本なのではないか。

(2) その他の意見

- ・もしかして総合教育センターでも同様のことをしているのではないか。それを知らない、調べていないだけではないか。センターと摺り合わせしていないのでは。
- ・裁量を単純に市町にとのことだが、最終的には県が監督指導をするのだから、現状と同じになるのではないか。
- ・効果があると思うが、メリット、デメリットを考えたとき納得できる答えが聞けなかった。
- ・成果としてリーダー当事者の生の声を知りたい。
- ・成果には良いことしか書かれていない、できれば反省点も聞きたい。
- ・研修の多さと効率の問題があることが分かった。1つの事業を見ただけでは分からないことがいろいろあった。
- ・指導リーダー、エリアリーダー、具体的選定方法（評価基準）が不明。
- ・県と市町との“一気通関”のプランを整理する必要のあることを知りました。
- ・「リーダー」を誰がどのように選んでいるのか。
- ・アンケートで特に中学校で A 役に立ったが 5 割未満ということはやらないほうがまし。高校の A が 70% 台はかろうじてやや効果があるのかもしれない。
- ・父兄として考えると先生の実力があってもなくても 1 年間同じ先生に子どもを見てもらっているの、親としては先生も実力をつけて子どもの指導にあたってほしい。今後先生になられた方もなる方も、その子の一生を見ているという気持ちで臨んでほしい。